ヨロズ物流が協同組合設立

技能実習生受入れがメイン

ヨロズ物流（新谷剛社長、大阪府富田林市）はこのほど、運送業や建設業、自動車整備業などを対象とした協同組合を設立した。名称は「ボンド協同組合」で、新谷氏が代表理事を務める。

新谷氏は、「人材不足や賃金の上昇、資材・燃料などの経費高騰にともない、事業経営が非常に厳しい時代に突入しており、各事業者がさまざまな成長戦略を考えるなかで、結束して難局を乗り越えるべきと判断して協同組合の設立に至った」と経緯を説明。「人と人との『絆（英語でボンド）』を大切にして、物品の共同購買や関連する事業の共同受注および、外国人の技能実習生の受け入れを目的として運営していく」と意気込みを語る。

グループ会社で働く技能実習生

事務局長に就任した坂本享広氏は、前職でメーカーの工場で外国人雇用などを手掛けた経験を持つ。「物流業界は人手不足でこれからは外国人に頼らざるを得ない。外国人の人材派遣事業をやりたい」との新谷社長の思いを聞き、昨年10月に入社し、準備や仕組みの構築を進めてきた。

技能実習生を受け入れて、人材に困っている各企業に派遣していくため、ヨロズ物流単独でなく「団体監理型」で受け入れを行うことを出し、大阪府に申請らスタートさせた。坂本氏は、「保有車両5～40台くらいの規模の企業をターゲットにしており、組合単価として安価で仕入れて燃料コスト低減に協力できれば。また、今後ETCなども展開していきたい」と述べる。

技能実習生は基本的に3年で母国に帰るが、さらに特定技能資格を取得すると5年追加され、計8年働くことができる。特定技能は企業の直接雇用となり、それに対応するため、ヨロズ物流として「登録支援機関」と「有料職業紹介」の許可を取得した。「例えば自動車整備士が不足している企業に対しては、『自動車整備』の特定技能者を紹介する。その第一弾として、板金・整備を手掛けるグループ会社に、ベトナムから特定技能者を受け入れた。技能実習生は3年経験しているので戦力として十分に期待できる」という。

なによりメインで考えているのは、外国人ドライバーの受け入れだ。今年4月に特定技能「自動車運送業」の施行が決定したが、評価試験がまだ発表されておらず、また、試験への合格や、日本で運転できる免許（外免切り替え）、日本語能力試験への合格など、雇用までのハードルは低くない。それでも、「特定技能の資格を持つ者をまず受け入れて、その後、本人の了承を受けたうえで資格変更という流れでドライバーを育成するなど、最善の方法をご提案できれば」と展望を語る。

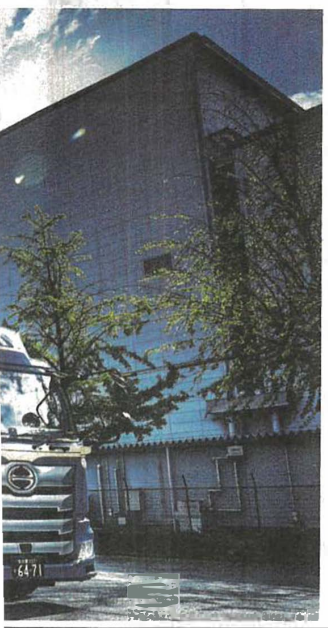
坂本氏は、「中小企業は人手不足や高齢化で、募集をかけても集まらないと聞く。そうした事業者の一助になれば」と、技能実習生受け入れにともなう同組合への加入および特定技能者の紹介の問い合わせを呼び掛けている。（中野秀一）

外国人ドライバーも視野に

高末「タカスエロット便」

中ロット貨物を集配

総合物流企業の高末（高村徹郎社長、名古屋市熱田区）では中ロット貨物の積み合わせサービスである「タカスエロット便」を通して、送シーンの効率化などを提案している。タカスエロット便は


同社のトラック

高まることでもあるので、顧客満足度を上げるためにも周知と拡大をいっそうはかっていきたい」とコメント。創業12年という同社の歴史も、サービスを利用する側にとっては何よりの安心材料と言えるだろう。（朝妻聖一）

24年問題への解決策となる 20FTハイブリッドコンテナ

ITE　鉄道モーダルシフトを前進

アイ・ティ・イー（ITE、パンカジ・ガルグ社長、東京都千代田区）はこのほど、全日本食品の協力の下、丸紅（柿木真澄社長、同）と共同で実施したIceBattery20FTハイブリッドコンテナによる鉄道輸送試験に成功した。

同試験により、ITEのハイブリッド冷蔵技術が日本の物流および環境問題に実用的な解決策を提供するだけでなく、積載品の品質を維持しながら　送中に電力・ディーゼルを一切使用しない省エネ　送でコスト削減を実現できることが確認されたという。

今回の試験では、千葉県流山市～北海道恵庭市間の　送中、一切のディーゼル発電機や電源を使用しない低温物流の実現に成功。同コンテナは青函トンネル内においても庫内を冷却し続けることができ、最適な条件で農産品を最大7日間新鮮に保つことが証明された。

送開始前の予冷時間以外、輸送中に燃料

日豊高速運輸 専任の安全指導者

質の高い教

日豊高速運　（出口達也社長、愛知県刈谷市）では10年ほど前から安全教育のための専属教育者を配置し、質の高い安全研修を実現している。

社　修セ　で専　され　が、出発時間が早く